

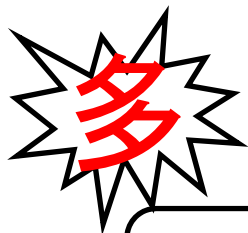
# 広島大学病院 エイズ医療対策室の取り組み ～ソーシャルワーカーの視点から～

広島大学病院 エイズ医療対策室  
エイズ予防財団 リサーチレジデント  
金崎 慶大

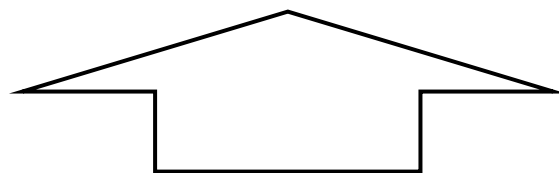
## ソーシャルワーカーの立ち位置 ～エイズ医療対策室の場合～

- ソーシャルワーカー(社会福祉士)2名
  - ※HIV専属のソーシャルワーカーとして配置
- 何らかの社会的・心理的問題があれば関わる
  - ※主に医師や看護師からの介入依頼がある
- 週に1回のカンファレンスに参加
- 研修会の企画・実施

# ソーシャルワーカーの役割って何？



経済的な問題、プライバシーの保護



## 具体的な援助

- ・制度の説明、申請から利用へ。必要であれば代行手続きも。
- ・他者に知られてしまうのではといった不安の軽減。

# 様々な問題を抱えるクライアント

医療費未払い

就労困難

プライバシー

依存症

受診中断

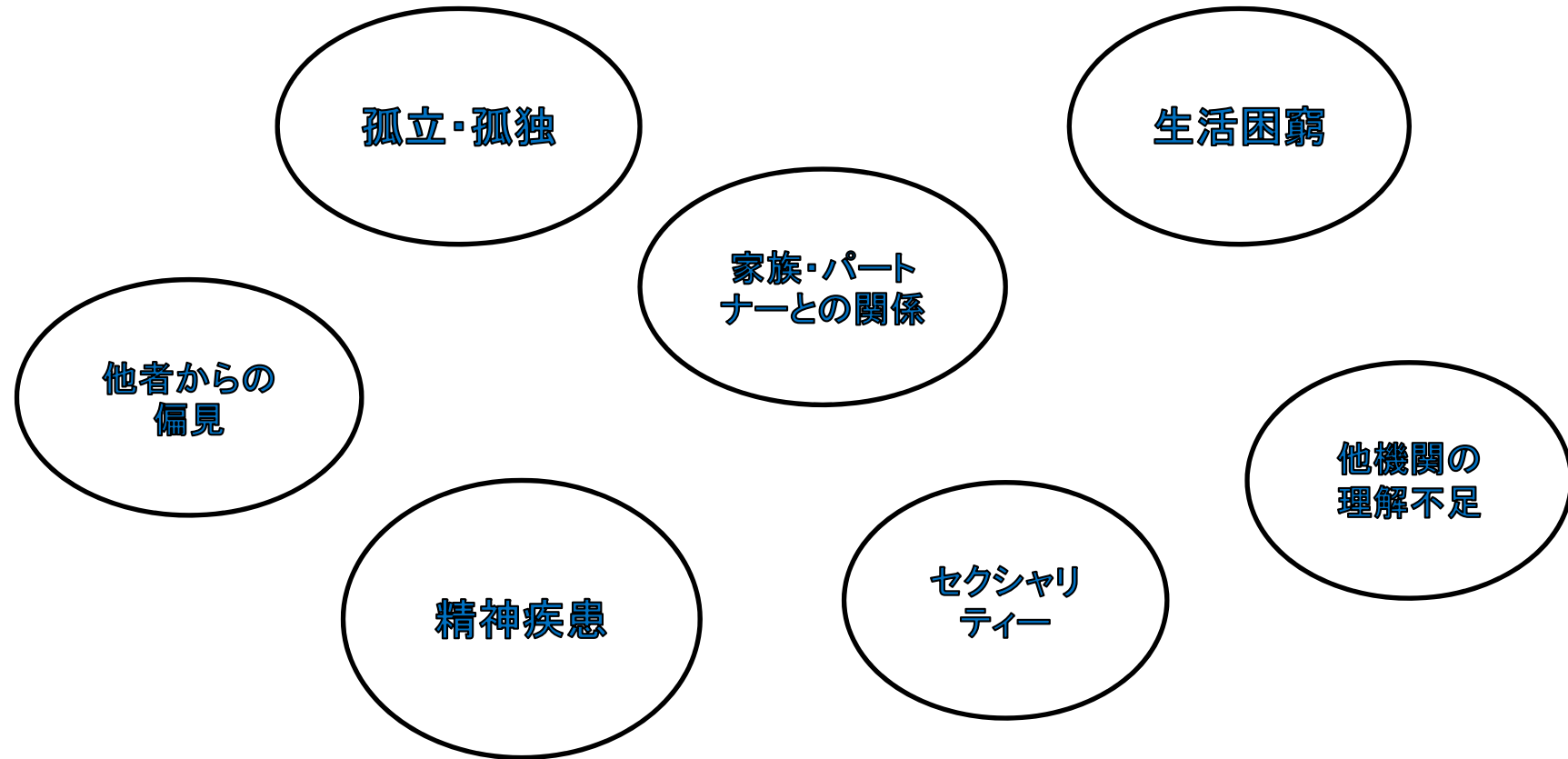
自殺願望

ひきこもり

性行動

療養先の  
受け入れ

# 表面化されている問題の背景には



## ソーシャルワーカーとしての支援

- 個人の問題としてのみ捉えるのではなく環境（社会的背景）にも目を向ける
- 患者としてだけでなく生活者としてどのようなサポートが必要か考える
- 全体像を視野にいれマネジメントする力が必要

## 他職種とはどのように連携を取っている？

- チーム全体での情報共有（定期的なミーティング）
- 必要に応じて看護師やカウンセラーに面談への同席を依頼する。
- ソーシャルワーカーとしての視点だけでなく他職種の視点を踏まえて支援するため、関わっている職種のアセスメントを聞き参考に。
- 気になることは相談し、助言できる環境を日常的に作る。

## 医療機関だけではどうにもならないことも・・・

- 外部の機関・施設へ協力、介入の依頼
- ネットワークの構築



HIV専属のソーシャルワーカー  
だからこそできることはあるのか。